



日本看護系学会協議会

ニューズレター

第6号

2006年2月28日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒929-1212

石川県かほく市中沼ツ7番1

石川県立看護大学内

TEL 076-281-8300 (代)

日本学術会議と看護学界との関係

日本学術会議

第20期会員 南 裕 子



2005年10月1日付けで小泉純一郎内閣総理大臣から日本学術会議会員に任命されました。このことは、看護学界の長年の念願であることは認識していますので、大変責任を重く感じています。微力ですが、精一杯努力を重ねる覚悟です。日本看護系学会協議会の皆様、どうかご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日本学術会議（以後、本会議）は、「科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、」1949年1月に内閣総理大臣の所轄の下に「特別の機関」として設立されました。57年の長き歴史があり、日本のあり方について数々の政策提言を行い、あるべき方向性を示し続けてきたという輝かしき歴史があります。しかし、どのような組織も半世紀を経過する内に、組織内外で軋みが生じるものです。それで、前期（第19期）の会員の精力的な働きで、組織内外からの改革への意見を取りまとめ、新しい本会議組織（第20期）が誕生しました。組織改正になったとはいえ、継続していることも多いのですが、法律改正になった点を中心に、現時点で私が理解していること、看護学界にとっての意味を述べさせていただきます。

1. 総合科学技術会議と連携して我が国の科学技術の推進に寄与するために、本会議の所轄が総務大臣（総務省）から内閣総理大臣（内閣府）になりました。

本会議は、学者の国会といわれていたように、全国約79万人の科学者を代表する組織なので、国政からみればありとあらゆる分野にまたがって国内外へ政策提言ができる必要があります。その意味で、内閣府に位置づけられた意義は高いと思います。

特に、本会議と別個に設定された総合科学技術会議に注目する必要があります。ここでは、①科学技術に関する基本的な政策の調査審議、②予算・人材等の資源配分等の調

査審議、および国家的に重要な研究開発の評価を行っています。本会議が主に提言を行うのに比べ、この会議は実際に執行する会議のように見えます。看護学界もこの会議との関係で本会議のことをみていく必要があると思われます。

2. 新分野・融合分野の出現に柔軟・的確に対応するために、従来、人文科学部門3部と自然科学部門4部の7部門制から成り立っていた組織を、①人文科学、②生命科学および③理学および工学の3部門制にしています。

看護学界から出ている私は第2部に所属しますが、この部門では現在9つの分野委員会があります。医療保健系分野では基礎医学委員会、臨床医学委員会、歯学委員会、薬学委員会および健康・生活科学委員会があげられます。また、課題別委員会のように3部門が合同で短期に結論を出せるような活動をする委員会もあります。会員はいずれの委員会にも手上げ方式で所属できますが、活動を活発にするためにはそれほど多く入れません。

私は、分野委員会では、健康・生活科学委員会と臨床医学委員会に所属しています。これらの委員会のもとに分科会が設けられるので、看護学分科会が是非ほしいと考えて主張しています。そのほかに、国際学会を本会議が支援することを検討する委員会にも所属しています。また、他の医歯薬関係委員会からもいくつかの分科会に入らないかとお誘いを受けています。

3. 個別の学術研究団体の利害にとらわれない政策提言を行うために本会議の会員の推薦を学術研究団体を基礎とした推薦制から本会議が自ら会員候補者を推薦する方法になりました。

従来の本会議への批判のひとつが、会員を推薦している学術研究団体の影響を受け過ぎているのではないかということでした。そういう弊害がなくなったのは良かったのですが、戸惑いも見られます。というのは、約79万人もいる研究者の内、210人しか会員に任命されないの、各

会員はいくつもの学会を一人で背負っているかのようなことになるからです。会員には研究費など出るわけではないので、会員だけで何人集まっても活動するには限度があります。私の場合を考えても、私は看護学界の一部しか見えてないので、どのような提言が看護学界から行えるかわかっているわけではありません。当然学術研究団体との連携が重要になります。日本看護系学会協議会は現在、組織の見直しに取り組んでいますが、本会議の会員と直接的な関係が明示されていないので、私は途方に暮れています。個別の学会に交渉するというのも偏りが出てくると思いますので、私自身は日本看護系学会協議会と連携が取れるような仕組みを作っていただきたいと願っています。

4. 緊急の課題・新たな課題に柔軟、迅速に対応するために、研究連絡委員会を廃止して、連携会員を新設しています。

黒川会長によると、この度の組織改正で強く主張したのはいずれ2000人に増加することだったそうです。それはかないませんでした。連携会員制度が新たに生まれました。連携会員はいずれ2000人になるようですが、現在は選考委員会を選考中です。近い将来1000人弱の人が選出されるのではと予測されていますが、看護学界から何人

就任するのか楽しみです。連携会員は、部門や委員会、分科会での活動においては会員と同等の権限を持ちます。したがって、たとえ看護学分科会が生まれても、連携会員に期待されるのはその分科会だけではなく他の分科会や委員会でも活動が期待されるということになります。

2月13日に開催された臨時総会では、連携会員の他に法律に明示されていないのですが、「特任会員（仮称）」という人が任命されるという可能性が議論されました。特別なプロジェクトで1年位の短期で成果をあげるために能力の高い方々の協力を得るための仕組みのようです。

会員に就任してから後、毎日のようにいろいろなところからメールが入り、膨大な資料を読み、判断し、提言するという宿題がでます。また、さまざまな会議が多いのには驚かされます。このような活動を日本看護系学会協議会や所属学会の方々とどのように連携できるのかが当面の私の頭の痛いところです。しかし、中広い学問のジャンルを越えた方々と社会の問題を討議できるのは大変刺激的であります。近く任命されるであろう連携会員や特任会員（仮称）とご一緒に6年間という任期を元氣瀧刺でいけるように頑張りたいと思います。

第19期の看護学研究連絡委員会を閉じるに際して

日本学術会議

第19期看護学研究連絡委員会

委員長 金川克子

日本学術会議法の一部改正に伴う改革により日本学術会議第19期は平成17年9月をもって終了となり、現在は新しい学術会議会員のもと第20期がスタートしています。

ところで、看護学系の大学・大学院設置の最近の増加をみるにつけ、その背景には様々な要素があるとしても、看護学が学問としての評価が得られている証拠ともいえます。看護学サイドの理論と技法を駆使し、国民の健康とQOLの向上に貢献するべく、看護学に科せられた課題は大きいものと思います。

しかし、看護学の分野からは残念ながら第19期までは日本学術会議の会員の資格が与えられず、看護界は辛酸をなめていましたが、第20期には南裕子氏が選出され、晴れて名実ともに、科学者コミュニティーへの仲間入りがで

き、うれしく思います。

これまでの看護学研究連絡委員会の活動内容は日本看護系学会協議会のニューズレターでも一部ご報告いたしており、ここでは割愛いたしますが、最後の仕事として看護系大学のご協力によりまして、「看護系大学における倫理審査の現状と課題」（平成17年8月29日付け報告書）をまとめることができ、ホッとしています。

当看護学研究連絡委員会を閉じることに際して、これまでの多くの方々のご支援と叱咤激励に対し、ここからお礼申し上げます。

（なお、上記報告書は各会員学会へはすでに送付済みですが、入手を御希望の方は本協議会事務局までお問い合わせ下さい。）

平成18年度 日本看護系学会協議会総会開催のお知らせ

平成18年度の総会は、本協議会の新規約とともに作成された役員選出規程にもとづき、選挙によって初めて選出された新役員の下に行われる総会になります。各学会からのご出席をよろしくお願い致します。

1. 日 時 平成18年4月15日（金）13：30－16：00
2. 場 所 聖路加看護大学 本館402教室

〈平成17年度 日本看護系学会協議会 総会報告〉

平成17年7月15日（金）13:30～15:30に、聖路加看護大学2号館において、今年度の総会が開催されました。以下にその議事内容について報告します。

報告事項

1. 本協議会会員学会状況（平成17年6月30日現在）
平成17年度から日本看護技術学会が加わり、会員学会数は29となった。
2. 平成16年度本協議会役員会活動
金川会長より、活動状況について報告された。
3. 日本学術会議看護学研究連絡委員会活動
金川会長から同研連の活動状況について説明があった。現在、「看護学研究における倫理的課題（仮）」について報告書を作成中であり、第19期任期中に第7部会に提出する予定であることが報告された。
4. 本協議会主催シンポジウムについて
「今こそ求められる看護学の社会貢献—高齢者への安全と安心の提供をめざして—」（2005年2月12日）をテーマにシンポジウムが開催されたことが小松理事より報告された。
5. 役員の一部交代
会計担当理事が村嶋幸代理事より小山眞理子理事に交代になったことが報告された。

審議事項

1. 平成16年度報告について
1) 事業報告 2) 決算報告 3) 監査報告
以上について、異議なく承認された。
2. 組織変更ならびに規約改正について
川嶋副会長より、原案について●日本学術会議の改組

に伴い、本協議会規約を変更する、●日本学術会議だけでなくその他の学術組織も視野に入れて活動を行う、●役員に「指名理事」をおく、●役員を選挙で選出する、などの新規約の骨子が説明され、審議を行った。

その結果、「目的」について種々意見が出され、国への提言をどのように表記するかなどについて継続して検討することとなった。また、役員選出規程についても次回提案とするが、選出される役員は、選挙時点では各学会からの推薦ではあるが、選出後は各学会での役割任期とは別のものとして本協議会役員の任期中の活動を行うことが合意された。

今後、規約案を役員会で再検討し、9月中の新規約施行を目指して、臨時総会を招集することとなった。

3. 平成17年度事業計画案について

ほぼ原案通り承認されたが、●事業としてあげられている「規約改正」を「規約等改正」とし、役員選出規程の整備を含めること、●総会は原則的に年1回の開催であるが、今年度は必要な議案があることから総会を2回とすること、が確認された。

4. 平成17年度予算案について

原案に対し審議の結果、●臨時総会開催分は予備費によってまかなうこと、●第19期研連委員の平成17年度分年会費については、その身分が年度途中で切れるが、協議会役員の役割を今年度中は続けることから従来どおりとすること、として承認された。

（平成17年度29会員学会中27学会出席、看護学研連委員5名出席、委任状1により、総会成立）

〈平成17年度 日本看護系学会協議会 臨時総会報告〉

平成17年9月26日（月）13:30～15:55に、聖路加看護大学2号館において、臨時総会が開催されました。以下にその議事内容について報告します。

報告事項

1. 本協議会会員学会状況（平成17年9月26日現在）
新たに日本循環器看護学会が加わり、会員学会数は30となった。
2. 日本学術会議看護学研究連絡委員会活動
金川会長から、看護学研連の報告書が第7部会に提出され、承認されたことが報告された。
3. 本協議会主催シンポジウムについて
小松理事より、11月19日に「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること」のシンポジウムが青森で開催されることが報告された。

審議事項

1. 本協議会規約改正について
川嶋副会長より、前回の審議をふまえ「目的」では、

本協議会は●研究成果の社会還元を図るために学会活動を支援すること、●外部（国や社会）に対して意見を述べることをとりいれたことが説明され、承認された。その他、文言に対する意見が出され、●最終的な表現は役員会に一任すること、●9月26日施行とすることが承認された。

2. 役員を選出方法について

高見沢理事より役員選出規程原案について説明され、審議された。その結果、選挙管理委員会の役割等に関して一部修正の後、承認された（9月26日施行）。審議の中で、選挙人は学会名、被選挙人は個人名で出されることの再確認がなされた。

選挙管理委員会となる3学会についての役員会からの推薦を抽選で行うことが提案され承認されたことを受けて、抽選の結果、高知女子大学看護学会・日本家族看護学会・日本看護技術学会が推薦され、承認された。

（平成17年度30会員学会中26学会出席、看護学研連委員4名出席、委任状4により、総会成立）

○ 本協議会主催シンポジウムが開催されました ○

昨年11月19日(土)、日本看護系学会協議会主催の公開シンポジウム「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること」が、日本看護科学学会第25回学術集会終了後に青森市内の同会場で開催されました。

当日は、本協議会の会員である4学会を代表するシンポジストから、それぞれの学会のもつ特徴や問題点をふまえた立場での貴重なご発表があり、その後の全体討議では、離職を予防するために看護系学会協議会全体が、どのような形で社会貢献できるかについて、より具体的な、また熱心な意見交換が行われました。

今回、看護界の抱える問題に対し、会員学会それぞれから1つの共通目標に向けて提言するといったシンポジウムは初めての試みでしたが、フロアも含め焦点が絞られた有意義な討議が深められたのではないかと思います。その意味では、今後の本協議会の果たすべき役割の一つの方向性を示すものとなったのではないのでしょうか。皆様のご協力に感謝申し上げます。(このシンポジウムの概要は講演集として公刊し、各会員学会に配布する予定です。)

ー公開シンポジウムー

「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること」

開催日時：平成17年11月19日(土) 17:00～19:00

開催場所：ホテル青森「孔雀の間」

〈司 会〉 山口 桂子氏 (日本看護系学会協議会役員・愛知県立看護大学)
 小山真理子氏 (日本看護系学会協議会役員・神奈川県立保健福祉大学)

〈シンポジスト〉

1. 「“新人看護師の離職”という現象を研究的に読み解く ー日本看護科学学会が貢献できることー」
 野末 聖香氏 (日本看護科学学会・慶應義塾大学看護医療学部)
2. 「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること ー救急部門看護管理者への緊急調査の報告をふまえー」
 中村 恵子氏 (日本救急看護学会・青森県立保健大学)
3. 「研究成果に基づくプリセプター研修の実現と教育コーディネーターの養成」
 舟島なをみ氏 (日本看護教育学会・千葉大学看護学部)
4. 「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること」
 嶋森 好子氏 (日本看護管理学会・京都大学医学部附属病院)

日本看護系学会協議会会員名簿 (平成18年1月31日)

会 員 名	会 員 名
・高知女子大学看護学会	・日本災害看護学会
・聖路加看護学会	・日本在宅ケア学会
・千葉看護学会	・日本手術看護学会
・日本家族看護学会	・日本小児看護学会
・日本看護科学学会	・日本循環器看護学会
・日本看護管理学会	・日本助産学会
・日本看護技術学会	・日本新生児看護学会
・日本看護学教育学会	・日本腎不全看護学会
・日本看護教育学会	・日本赤十字看護学会
・日本看護研究学会	・日本地域看護学会
・日本看護診断学会	・日本糖尿病教育・看護学会
・日本看護福祉学会	・日本難病看護学会
・日本看護歴史学会	・日本不妊看護学会
・日本がん看護学会	・日本母性看護学会
・日本救急看護学会	・日本老年看護学会

〈役員〉

会長 金川 克子*
 副会長 太田 喜久子*
 副会長 川嶋 みどり
 理事(企画) 小松 浩子
 理事(会計) 小山 真理子
 理事(庶務) 田中 京子
 理事(企画) 舟島 なをみ*
 理事(会計) 堀内 成子*
 理事(庶務) 山口 桂子*
 監事 近藤 潤子
 監事 高見沢 恵美子*

(ともにアイウエオ順)

*看護学研連委員の6名は規約改正後は正式な会員ではないが、今年度内に限り、新役員への引き継ぎまでの間、役員として活動する。

ー編集後記ー

現在、選挙管理委員会のもと、次年度からの役員を選出する選挙作業がすすめられています。昨年、日本学術会議の改組に伴い、本協議会も組織のあり方や役割についての見直しを迫られることになりましたが、その結果として各学会がこの協議会にどのように参加し役割を果たしていくのか、また看護学としてどのように社会と結びついていくのかを考えるよい機会になったのではないかと思います。4月からは新役員による運営が始まります。さらなる発展に向けての皆様のご協力をお願いいたします。(k)

	学会名	理事長	学会連絡先					ホームページアドレス	
			郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail		宛先 (担当者)
1	高知女子大学看護学会	松本 女 里	781-0111	高知県高知市池 2751-1 高知女子大学看護学部に	(088)-847-5524	(088)-847-5524		松本 女 里	
2	聖路加看護学会	田代 順 子	104-0044	東京都中央区明石町 10-1 聖路加看護大学内	(03)-3543-6391	(03)-5565-1626		田代 順 子	http://sinr.umin.jp/
3	千葉看護学会	正木 治 恵	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学看護学部に 老人看護学教育研究分野	(043)-226-2426	(043)-226-2426		清水 安 子	
4	日本家族看護学会	鈴木 和 子	514-0116	三重県津市夢が丘 1-1-1 三重県立看護大学	(059)-233-5629	(059)-233-5629		杉下 知 子	http://square.umin.ac.jp/jarfn/
5	日本看護科学学会	南 裕 子	113-0033	東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201	(03)-5805-1280	(03)-5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	南 裕 子	http://jans.umin.ac.jp
6	日本看護管理学会	井部 俊 子	104-0044	東京都中央区明石町 10-1 聖路加看護大学 井部俊子研究室	(03)-5550-2274	(03)-5550-2274		井部 俊 子	http://janap.umin.ac.jp
7	日本看護技術学会	川島 みどり	120-0036	東京都足立区千住仲町 14-4・2F 健和会臨床看護学研究所内	(03)-5813-1317	(03)-5813-1317	jsnas@nifty.com	川島 みどり	http://homepage3.nifty.com/JSNAS/
8	日本看護学教育学会	佐藤 禮 子	105-0012	東京都港区芝大門 2-12-6 芝ハタビル 402	(03)-5472-7455	(03)-5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	佐藤 禮 子	http://www.jane-ns.org
9	日本看護教育学学会	亀岡 智 美	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学看護学部看護教育学 教育研究分野 気付	(043)-226-2397	(043)-226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟島 なをみ	http://jasne.umin.jp
10	日本看護研究学会	山口 桂 子	260-0856	千葉県千葉市中央区亥鼻 1-2-10	(043)-221-2331	(043)-221-2332	jsnr@peach.ocn.ne.jp	山口 桂 子	http://jsnr.umin.jp/
11	日本看護診断学会	江川 隆 子	540-0037	大阪市中央区内平野町 2-3-5	(06)-6941-6701	(06)-6941-6702	jsnd@dolphin.ocn.ne.jp	江川 隆 子	
12	日本看護福祉学会	杉本 敏 夫 (代表理事)	607-8175	京都市山科区大宅山田町 34 京都橘大学看護学部に	(075)-574-4251	(075)-574-4251	okazaki@tachibana-u.ac.jp	岡崎 美智子	
13	日本看護歴史学会	川島 みどり	288-0829	神奈川県相模原市北里 2-1-1 北里大学看護学部に	(0427)-78-9826		satanaka@yubin.nrs.kitasato-u.ac.jp	田中 幸 子	
14	日本がん看護学会	小島 操 子	583-8555	大阪府羽曳野市はびきの 3-7-30 大阪府立看護大学内 日本がん看護学会事務局	(0729)-50-2111	(0729)-50-2368		高見沢 恵美子	http://jscn.umin.jp
15	日本救急看護学会	中村 恵 子	564-0052	大阪府吹田市広芝町 18-24 メディア出版内		(06)-6310-9901	jaen-adm@umin.ac.jp	中村 恵 子	http://jaen.umin.jp
16	日本災害看護学会	南 裕 子	650-0044	兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-3-3 兵庫県立大学大学院応用情報 科学研究科内	(078)-367-8630	(078)-367-8630	azuma@ai.u-hyogo.ac.jp	東 ますみ	http://www.jsdn.gr.jp/
17	日本在宅ケア学会	島内 節	105-0001	東京都港区虎ノ門 3-7-2 ㈱ワールドプランニング内	(03)-3431-3715	(03)-3431-3325		島内 節	
18	日本手術看護学会	久保田 由美子	113-0033	東京都文京区本郷 3-24-8 第一今村ビル 4F	(03)-3813-0485	(03)-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	坂崎 幸 子	
19	日本循環器看護学会	井部 俊 子	104-0044	東京都中央区明石町 10-1 聖路加看護大学 井部俊子研究室	(03)-5550-2274	(03)-5550-2274		滝口 珠 子	http://janap.umin.ac.jp
20	日本小児看護学会	日沼 千 尋	162-8666	東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学看護学部に 日本小児看護学会事務局	(080)-5540-1322	(03)-3357-4874	jschn@nurs.twmu.ac.jp	日沼 千 尋	http://jschn.umin.ac.jp/
21	日本助産学会	堀内 成 子	102-0071	東京都千代田区富士見 1-8-21 東京都助産協会館内	(03)-3221-0417	(03)-3221-0417	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	堀内 成 子	http://square.umin.ac.jp/jam/
22	日本新生児看護学会	横尾 京 子	734-8551	広島県広島市南区霞 1-2-3 広島大学大学院保健学研究所内	(082)-253-4636	(082)-253-4636	yokoo@hiroshima-u.ac.jp	藤本 紗央里	http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
23	日本腎不全看護学会	宇田 有 希	231-0013	神奈川県横浜市住吉町 1-4 第3白井ビル 5-A	(045)-226-3091	(045)-226-3092	uda-jann@yk.rim.or.jp	宇田 有 希	
24	日本赤十字看護学会	樋口 康 子	150-0012	東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0722	(03)-5485-5777		樋口 康 子	
25	日本地域看護学会	小西 美智子	471-8565	豊田市白山町七曲 12-33 日本赤十字豊田看護大学内	(0565)-36-5111	(0565)-37-8557	konishi@rctoyota.ac.jp	小西 美智子	
26	日本糖尿病教育・看護学会	河口 てる子	150-0012	東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0912		jaden@redcross.ac.jp	河口 てる子	http://jaden.umin.ac.jp/
27	日本難病看護学会	牛込 三和子	183-8526	東京都府中市武蔵台 2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)-325-3881	(042)-328-7311		牛込 三和子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
28	日本不妊看護学会	森 明 子	104-0044	東京都中央区明石町 10-1 聖路加看護大学内 日本不妊看護学会事務局	(03)-5550-2266	(03)-5550-2266	jsin@slcn.ac.jp	森 明 子	http://jsin.umin.jp
29	日本母性看護学会	前原 澄 子	514-0116	三重県津市夢が丘 1-1-1 三重県立看護大学内	(059)-233-5605	(059)-233-5666	junko.muramoto@mcn.ac.jp	前原 澄 子	
30	日本老年看護学会	中島 紀恵子	943-0147	新潟県上越市新南町 240 新潟県立看護大学 日本老年看護学会事務局	(025)-526-3117	(025)-526-3117		中島 紀恵子	http://www.rounenkango.com/